

アフリカ平和再建委員会

Africa Reconciliation Committee : ARC-JAPAN

2011 年度事業・予算計画書

(2011 年 4 月 1 日～2012 年 3 月 31 日)

1. ルワンダ事業—虐殺後の国民和解支援

(1) ルワンダにおける現地支援活動

a) ルワンダ子ども支援基金

プロジェクトの主旨 ARC は、「ルワンダ奨学基金」を設けて、孤児の就学支援を行ってきた。しかしこの取り組みを通じて、子ども達の置かれている状況の複雑さに直面した。日常の衣食住をはじめ、子どもだけの世帯における仕事や家事・育児の負担、児童売買春の犠牲、ストリートチルドレンにならざるを得ない生活状況などである。教育機会だけではなかなか改善されないこれらの問題に対し、「ルワンダ奨学基金」を、発展的に「ルワンダ子ども支援基金」と改称し、戦争の犠牲になった子ども達のさまざまな問題に対して、活用をしていく。

今年度の取り組み ギシンバ・メモリアル・センターの孤児への奨学金支援を継続するとともに、子ども達が社会について学んだり、将来について考えたりする為の社会見学等への運営費などへの支援も行う。これについては、現地 NGO の提案をもとに検討する。

ファンドレイジング 本事業は個人の寄付によって運営されているため、より一層の寄付者拡大をはかる。具体的には広報を活性化し、また企業とのタイアップで企業の製品やサービスに寄付の要素も入れた「寄付商品」開発を検討して企業に提案していく。あわせて寄付者への報告やサービスを今まで以上に密に行っていく。

b) 公衆衛生改善事業

プロジェクトの主旨 本事業の目的は、事業地域にウォーターポンプ（ディーゼル式）を設置し、事業地域住民に対して清潔な水の安定確保を実現し、紛争影響地域の住民の公衆衛生を改善することにより、ローカルレベルでの平和構築の達成を実現することを目的とするものである。つまり、水資源の安定確保を通じ、事業地域の住民どうしによる希少な水資源確保を巡る軋轢を予防し、同時に、清潔な水資源の確保による住民の公衆衛生と予防医療の改善を通じ、紛争後の国家レベルの開発から取り残されているルワンダのローカルレベルの人々が中央政府に抱く不満を無くし、ローカルレベルでの平和構築を実現することを目的とする。

今年度の取り組み ウォーターポンプの設置によって、事業地域のおよそ 4~5 千の住民に対して清潔な水の安定供給が確保でき、事業地域の多くの住民の公衆衛生の大幅な改善につながる。裨益者の数が多い理由は、破壊されたウォーターポンプを再び新しいウォーターポンプに取り換えることによって、ウォーターポンプから事業地域の住民の居住区に通じているいくつかの水道が再び稼働し、多くの住民が清潔な水の安定確保を達成できるからである。

ファンドレイジング 助成金を中心に実施し、また企業・個人の寄付も募る。

(2) ルワンダ問題の関心喚起活動

94年のルワンダ虐殺は、ナチスのホロコースト、原爆投下、クメール・ルージュの虐殺とならぶ 20 世紀の虐殺の一つである。またポスト冷戦後のアフリカの紛争の象徴でもある。ルワンダの虐殺の歴史を伝え、平和再建に向けた取り組みを語り継ぐことで、アフリカの紛争問題への関心を喚起していく。そのために以下の事業を行っていく。

- ルワンダ問題への講師派遣活動
ルワンダ問題を多くの人に伝える為の講師派遣活動を行う。
- ルワンダ渡航相談業務
ルワンダ渡航希望者に安全かつ有益な渡航のための助言を行っていく。より多くの人にルワンダを通じてアフリカの紛争と平和への理解を深めてもらい、ARC への支持層の拡大につなげていく。
- 日本とルワンダの人的交流活動促進
学生団体「日本ルワンダ学生会議」の活動に助言を行い、日ル青年交流と相互理解の促進を支援する。

2. 児童兵士問題——「ストップ子ども兵士アクション」キャンペーン

現代紛争の象徴的存在——「子ども兵士」。この問題に向けて、「関心喚起」、「提言」、「直接支援」の3側面から、以下の活動を行っていく。

方針

子ども兵士問題の日本における理解促進

- 他の NGO・大学等との協力のもと、子ども兵士問題への理解を促すため、映画「見えない子どもたち」自主上映会運動拡大を通じ、子ども兵士問題への関心喚起・理解促進を行っていく。
- 子ども兵士問題理解促進のブックレット、キャンペーンリーフレット発行

国際社会への提言

- 子ども兵士問題への提言を行う国内外の NGO とのコンタクトを取り、国際会議などに提言する。

現地での子ども兵士支援活動への協力

- ウガンダ等の子ども兵士の社会復帰を支援している現地の活動への協力をすすめる。

今年度の取り組み

- ① 啓発パンフレット、キャンペーン用リーフレットを作成し、子ども兵士問題の周知を進める。
- ② 子ども兵士問題に関心ある機関の講座への講師派遣に力を入れる。とりわけこの問題への関心の高い小中高校に対し、総合学習の時間等への講師派遣を促す。
- ③ 映画「見えない子どもたち」等の映像を使った上映会を通じ、問題への関心を高める。
- ④ ウガンダ北部の子ども兵士社会復帰事業の視察を行う。

3. アフリカの紛争問題についての関心喚起

a) 連続講演会活動

アフリカの紛争問題や開発問題に関して講演をできる人材をリストアップし、講演会を企画する。アフリカの紛争問題への関心を拡大する活動であると同時に、ARC の収益にもつなげていく。

今年度の講師（予定）	肩書き
永松真紀	ケニア・エコツアー主宰
ヴァージル・ホーキンス	大阪大学准教授
石原邦子	アマニ・ヤ・アフリカ代表
瀬谷ルミ子	日本紛争予防センター事務局長
大津司郎	ジャーナリスト
大崎敦司	ジャーナリスト
米川正子	宇都宮大学特任准教授
後藤健司	ジャーナリスト

4. フェアトレード事業

主旨 1994 年の内戦の後、働き手として、また世帯主としての女性の収入創出は緊急課題となっている。そのために ARC は 2000 年度から 2004 年度にかけて、比較的短期で習得でき、設備投資も必要とせず、また、バナナ収穫後のバナナ樹皮という廃品利用で環境にも良いバナナ工芸品製作技術訓練活動をローカル NGO の ARTCF を通じて行ってきた。この事業の修了生の生計向上のための機会を提供としていくため、生産者から直接的に製品を購入し、日本国内で販売を行う。

今年度の取り組み 昨年同様に販路を拡大すると同時に、他団体との協力でケニア、ウガンダの製品も扱っていくこととする。

5. 組織運営

(1) 特定非営利活動法人化の準備

特定非営利活動法人格取得のための事務手続きに着手する。特定非営利活動法人にふさわしい、経理体制、意思決定プロセス、役割分担（理事長、理事、顧問、事務局）を、引き続き整備していくこととなった。

(2) 資金源獲得

今後の取り組み

- ① 企業に対してはイベント等の協賛を依頼する。
- ② 募金箱を設置する企業、商店を募る。
- ③ クリック募金協賛企業を探す。
- ④ インターネット上のアフィリエイトの検討。

(3) 活動レポートの発行

活動レポートを発行し、ルワンダでの活動、子ども兵士キャンペーンの活動などについて会員、寄付者、アフリカ関係者、NGO 関係者などに対して報告活動を行う。

6. 収支予算書(2011年4月1日～2012年3月31日)

収入の部		支出の部	
ルワンダ公衆衛生改善事業		ルワンダ公衆衛生改善事業	
助成金	2,300,000	ルワンダ女性支援(助成)	1,900,000
寄付金	200,000	ルワンダ女性支援(自己)	100,000
ルワンダ子ども支援基金		ルワンダ子ども支援	
助成金	0		300,000
寄付金	200,000		
ストップ子ども兵士アクション事業		ストップ子ども兵士アクション事業	
助成金			200,000
寄付金	100,000		
国内活動助成金	1,960,000	国内事業	70,000
会費		人件費	0
個人	100,000	賃借料	380,000
団体	0	通信費	200,000
無指定寄付	100,000	広報費	350,000
事業収入		文房具	7,000
販売収入	150,000	記録費	0
講座収入	80,000	機材費	250,000
受託事業		交通費	5,000
利息	400	物販関係	30,000
前年度繰越金	216,627	雑費	10,000
合計	5,407,027	合計	3,802,000
		翌年度繰越金	1,605,027

以上